

令和 6 年度第 1 回 渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

令和 6 年 7 月 2 5 日（木）午前 1 0 時開会 正午閉会

II 開催場所

渋川市役所本庁舎大会議室

III 出席者

1 構成員

高木市長、下境教育長、岩崎教育長職務代理者、都橋教育委員、
原澤教育委員、須田教育委員

2 市長部局

伊勢副市長、鴻田総合戦略部長、小野政策戦略課長、
坂本政策戦略課統括主幹、後藤政策戦略課主査

3 教育委員会部局

斉藤教育部長、西島教育総務課長、飯塚学校教育課長
太田文化財保護課長、山賀教育総務課課長補佐

4 傍聴者

8 名

IV 会議の概要

1 開会

政策戦略 課長	皆さんおはようございます。本日はお忙しいところご出席 いただきまして、誠にありがとうございます。 ただいまから令和 6 年度第 1 回 渋川市総合教育会議を開会 いたします。会議の進行を務めさせていただきます。政策戦 略課の小野です。よろしくお願いいたします。
------------	--

2 市長あいさつ

政策戦略 課長	それでは、開会にあたりまして高木市長からごあいさつを 申し上げます。
高木市長	皆さん、おはようございます。令和 6 年度に入って最初の 総合教育会議を開催いたしました。委員の皆様にはお忙しい

	ところお集まりいただきましてありがとうございます。総合教育会議ができた発端は、教育行政を教育委員会と市長部局が一緒になって、進めようということで始まりました。 過去には、コミュニティ・スクールが議題になったことがあります。渋川市らしいコミュニティ・スクールを作ろうということでスタートしまして、今進んでいるところでもあります。その他様々な課題について議論してまいりました。 今日の議題は、「食育の推進と学校給食について」と「渋川市の特色ある英語教育の推進について」ということで、両方とも、大変重要なテーマでもあります。内容もそうですし、財政的なことなどで様々な課題があると思います。そのようなことについて、議論して、より良い方向性を見出していきたいと思います。 また、「ヒメギフチョウの現状と保護活動について」ということで、県指定の天然記念物になっております、「赤城姫」と親しまれておりますヒメギフチョウの絶滅が心配されてるということで、様々な対応、対策をとっております。そういったことについても、後ほどご報告し、情報共有をしていきたいと思います。 限られた時間ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。
--	---

3 教育長あいさつ

政策戦略課長	ありがとうございました。続きまして、下境教育長からごあいさつをお願いいたします。
下境教育長	皆様おはようございます。令和6年度の第1回の総合教育会議を関係者の参加のもと開催できますこと、感謝申し上げます。 教育長としては初めての総合教育会議となります。 昨年度1月に開催をされました、総合教育会議では、部活動の地域移行ということで、当時渋川スポーツクラブ課長として、この席に呼んでいただきました。 その際、委員の皆様から多くの質問をいただいたり、また貴重なご意見をいただいたと記憶しております。そのことが、

	今年度の部活動の地域移行の推進会議の立ち上げ、さらには、教育だけでなく、市長部局と全庁で、部活動の地域移行に、取り組んでいく、協議をしていただく、そんな機会を作っていただきましたことに感謝申し上げます。 渋川市が掲げる育都、そして教育都市渋川を推進する上で、子どもから大人まで、生涯にわたって幅広く学習する機会、環境を作っていくことが求められると思います。そして、この会議が、その環境や体制づくりをする発信源になって欲しいと、そのような思いでございます。今日は2つのテーマについてご協議をいただき、そして、ヒメギフチョウの報告もさせていただきます。 皆様からの貴重な意見を明日からの教育行政に生かしてまいります。そして、市長部局とともに教育部が力を合わせて、渋川市の教育を充実させられるように、取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞ皆さんの貴重なご意見をいただきたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。
--	--

4 議題

政策戦略課長	ありがとうございました。本日は、今年度初めての会議であります。委員の皆様からも自己紹介という形でごあいさつをいただきたいと思います。教育長職務代理の岩崎様からお願いいたします。 【教育委員あいさつ】
政策戦略課長	皆様ありがとうございました。続きまして、職員の自己紹介を市長部局、教育委員会事務局の順にさせていただきます。副市長からお願いします。 【市長部局・教育委員会部局・事務局あいさつ】
政策戦略課長	ここで、本日の資料の確認をさせていただきます。 まず、令和6年度第1回渋川市総合教育会議次第、出席者名簿、当会議の設置要綱、資料 No.1－1「食育の推進と学校給食について」、資料 No.1－2「参考資料」、資料 No.2－1

政策戦略課長	「渋川市の特色ある英語教育の推進について」、資料 No. 2 – 2 「渋川グローバル・コミュニケーション・デーについて」、資料 3 「ヒメギフチョウの現状と保護活動について」 以上の資料を皆様に事前に配布してございます。 資料の不足等がございましたら、お申し出いただきたいと思います。 なお、本日の会議を傍聴したいとの申し出が現時点で 7 名の方からございました。 本日の会議は公開の会議でありますので、これを認めることについて、ご異議はございませんでしょうか。 【異議なし】 ありがとうございます。異議なしということですので、傍聴することを認めさせていただきたいと思います。では傍聴希望する方にご入室いただきたいと思います。 【傍聴者入室】 それではこれより次第の 4 議題に移らせていただきます。渋川市総合教育会議設置要綱第 4 条第 1 項の規定により、市長は総合教育会議の議長となると規定されております。ここからの進行につきましては、高木市長にお願いいたします。 なお、会議録を作成する都合上、発言される方につきましては、氏名をおっしゃってから発言いただきたいと思います。それでは、高木市長進行をお願いいたします。
4 議題（１） 食育の推進と学校給食について	
高木市長	それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。 議題「（１）食育の推進と学校給食について」に入ります。資料 No. 1 の説明をお願いします。 【教育部 説明】
高木市長	事務局から説明が終わりました。ご質問などありましたらお願いします。

都橋委員	3点ほどございます。 まず、資料の1－1、真ん中あたりにある「具体的な事業概要」で、栄養教諭等による食に関する指導ということで、栄養教諭の具体的な配置といますか、あるいは、持ち回りなのか、各学校にどのように配置しているのか、具体的に教えていただきたいです。それが1点です。 それから、2点目が、4ページの上段、厳格な衛生管理のもととあるのですが、衛生管理の方法、具体的な取り組み、そういったものがあれば教えていただきたいです。 それから、3点目ですが、5ページの真ん中あたり、財源確保の件ですが、これから先、食材費の増加、それから、人件費の増加など、そういったことが考えられると思います。給食費に関わる費用は、これから先、増加することが目に見えていると思います。そんな中で、財源の確保の方法について、市民にとって納得のいく方法での財源の確保をお願いしたいと思います。それから、これは言いにくいことなのですが、給食費の無償化に対して、反論もあるということ、念頭に置いていただいた取り組みをお願いしたいと思います。以上、3点ですが、よろしくお願いします。
高木市長	事務局から回答をお願いします。
教育総務課長	まず、1点目の栄養教諭の配置に関しましては、県の栄養教諭、あるいは、栄養士が、調理場の規模によって配置が決まっております。南部調理場については、県職が2名、北部及び東部については、県職の栄養士、あるいは、栄養教諭が1名ずつということで、市内の3つの共同調理場には、4名の県費の栄養教諭、あるいは栄養士がおります。その他に市単での栄養士がおります。南部1名、北部2名、東部2名、市単の栄養士が5名おりました、各調理場には、市単と県費が、合わせて3名ずつ配置をされているような形となっております。なお、県費の栄養教諭は、在籍校が決まっておりますが、在籍校以外の、例えば南部調理場が配送する学校には、食育の指導ということで、各学校に栄養教諭がまいりまして、食育の推進を行っております。

	2点目の質問ということで、衛生管理の方法になりますが、こちらは、衛生管理の基準は法的に決まっておりますので、法を遵守しながら、例えば、検便などの定期的な検査もございますし、調理場内の衛生管理が保たれているかというところでの検査もございます。また、普段から入室するときの手洗いはもちろんですが、説明の中でもいたしましたが、汚染区、非汚染区などについては、着替え等を行っております、衛生管理の徹底に努めておるところでございます。 また、3点目の質問として、給食費、食材の高騰や人件費の増加というようなお話があったかと思います。給食費につきましては、食材相当が給食費となりますので、人件費は給食費には反映されません。なお、直営のところには、現業の職員と会計年度の職員が調理をしております。そちらの方は人件費は年間で予算を組んでおりますし、南部と東部については、業務委託というところで、調理配送等の委託をしておりますので、そちらの方で、委託料として人件費を含めての予算の確保をしております。物価高騰が近年続いているところで、栄養士が創意工夫をしていますが、適切な栄養素またはエネルギーが確保できないような状況が見込まれるようなことがあるのだとすれば、給食費の値上げによって食材費の確保を検討していかなければならないと思っております。以上です。
高木市長	財源の確保は大変なんですね。毎年一般財源を投入して維持していますが、このことについては、渋川市だけではなく、地方自治体の共通の課題になっています。政策的、政治的な動きもありますので、副市長から説明をお願いします。
伊勢副市長	都橋委員より貴重なご意見をいただいております。学校給食の無償化につきましては、先ほどお話もございましたように、毎年多額の費用が実際にかかっておりますし、そのことによって、財政指標に影響があることも事実でございます。 ただ、学校給食の無償化は、非常に全国的に拡大をしている状況でございます。平成29年度の統計では、全国で76の自治体しか給食費の無償化を実施しておりませんでしたけれども、その後、国の交付金などを活用した自治体も増え、

高木市長	コロナの時の交付金ですけども、それを当時は財源にして、令和４年度には４３７、令和５年度には５４７というように拡大しております。全国でも約３割の自治体が無償化をしているという実状がございます。そして、無償化の状況といたしましては、山梨県が約７割、群馬県が５割強、そして、埼玉県が５割、奈良県が４割と、特に群馬県は無償化してる自治体が多いというのが現状となっております。 この学校給食の無償化については、子どもの貧困、給食でしかなかなか栄養が取れないというような状況もあり、家庭も増えており、全国的に広がっている状況でございます。 しかし、これのデメリットといたしましては、財源、一般財源を使うことによって非常に地方自治体の財政力に影響を及ぼすこと、また、財政力のあるなしによって、この学校給食の無償化ができる、できないという状況になっていることも事実でございます。こちらについて、現在、国においても、「ナショナルミニマム」、国によって、最低限保障すべき事項の中に、義務教育の学校給食の無償化が入るのではないかとという議論が、活発化されておりました、国によって全額もしくは一部の、費用を負担すべきであるということが検討されている状況でございます。渋川市は、子どもたちを育てやすい環境、保護者への経済的な配慮という視点から、早くに導入を始めております。こういった状況をしっかりと国、県、関係機関等に伝えながら、財政支援を求めつつ、創意工夫をし、学校給食の無償化について、ご理解いただける政策を進めていきたいと思っております。 この国に対する財源の要望については、市長会からも要望しています。最初、平成２９年にスタートしたときは、渋川市とみどり市が学校給食の無償化をスタートしましたが、現在は５市に広がってきていますし、さらにまた色々な動きがあります。無償化されているところとされていないところがあるのはいかながなものか、ということで、国に強く働きかけています。法律が改正されて、国と地方で折半だったものが、地方が３分の２持つようになったことがありました。渋川市にとって、３億円近いお金が毎年、一般財源から出るの
------	--

岩崎教育 長職務代 理者	は負担なんですね。こういったことを、しっかりと国の方で対応してほしいということが、渋川市の強い要望でもあります。 他に意見がありましたらお願いします。
岩崎教育 長職務代 理者	保護者委員として、子どもたちの給食ということで、とても身近な議題ですけれども、無償化した時点で、保護者としてありがたいと思う反面、無償化だから仕方ないのかなというところで、何か給食に対して意見するのは逆に申しわけないように思う気持ちになっているところもあります。無償化されて、もちろん、ありがたいところもある中、感じているのですけれども、食材の、調達について、これまでも、教育委員会と何度かお話をさせていただく機会もありましたので、意見させていただきましたが、地元産はどれぐらい使われているのかだったり、その農薬の使用状況だったり、食材の育てられ方とかそういったことも、やはり親としては、気になりますので、そこはどのように情報として公開されているのか、その辺りを教えていただきたいと思います。
教育総務 課長	情報公開の方法ということですが、まず、参考資料の、15ページから17ページに各調理場のチラシということで添付をしております。この内容は、調理場ごとに色々なチラシを作成しておりますが、例えば、16ページのように、地元の野菜として、ズッキーニの紹介をしております。チラシはホームページに掲載はしていませんが、可能な限りホームページ等で情報を公開しているようなところでございます。
岩崎教育 長職務代 理者	この数年間で、献立表の中に、郷土料理だったり、今回、ハワイアンメニューということで、世界を学ぶことができたり、あるいは、ここにもありますように、各地の文化を学ぶ機会が増えているなど感じています。文化を学ぶと同時に農業ですとか、その地域の特産物ですとか、そういったものを子どもたちが学ぶ機会になるのが給食ですので、今後ともよろしく願いいたします。

高木市長	先日、ハワイアンメニューが給食で提供されましたので、教育長、副市長と学校に行って、子どもたちと一緒に食べました。子どもたちは、それぞれ給食を美味しく食べているのですが、食べながら、ハワイのこととか、文化のこととか、色々なことを話しながら給食を食べている姿を見て、やはり、給食は、黙って食べるのではなく、こうやって皆で楽しく食べて、その中で色々なことも学ぶものがあるのだと思いました。教育長はその場に、いらっしゃいましたけれどもいかがですか。
下境教育長	それでは、教育長として、感想とお礼を申し上げたいと思います。今、資料で提案をさせていただいた献立表 6 ページ、7 ページ、8 ページとございますけれども、献立以外の情報提供もしていただいています。それぞれの栄養士の工夫が出ていると思います。特に 7 ページは、今回はハワイをテーマにしている、非常にそれが強調されていたり、その下段には、ハワイアンフェスティバルのことも書いていただいたり、少し色をつけたり、レイアウトを工夫することで、子どもたちや保護者にとって見やすい献立になってるかなと思います。地元産の食材を使っていることや、このような郷土料理を提供するというような内容のチラシも同時に発出していただいております。今回ハワイアンのメニューと一緒に食べましたが、子どもたちは、関連して学習するということがすごく印象に残ると思います。ハワイのメニューを食べたということだけではなくて、ハワイのメニューを通して、ハワイのことを知る。おそらく、渋川市とハワイが姉妹提携を結んでいることを子どもたちは意識していないし、もしかすると、知らないかもしれません。今回のハワイメニューを通して、子どもたちが改めて、渋川市とハワイは交流をしていることを学ぶ場になったと思います。給食はもちろん工夫されておいしかったですが、そういった工夫をしていただいて、取り組んでいただいて、学校がそれぞれハワイの雰囲気や給食の時間に醸し出していただいた。これは本当に教育の場では非常に効果があるかなというふうに思います。ぜひ、姉妹提携を結んでいる国々のメニューも食べてみたいと、そんな思

	いで帰ってまいりました。以上でございます。
高木市長	副市長も一緒に学校に行きましたが、感想などお願いします。
伊勢副市長	私も市長、教育長と一緒に3校、各調理場が提供する給食を食べさせていただきました。印象に残りましたのが、5年生のクラスに行ったときです。まず、1人の子から、ハワイにもこのようなメニューがあるのだから、日本にも、日本の伝統のご飯があるんですよと。そういったものを大事にしていきたいという声が聞かれました。とても教育的な観点からも素晴らしいことに気づいていただいたなと思っております。 また、ハワイ以外にも、イタリア、オーストラリアですとか、姉妹都市で仲良くしている国がいくつもあることを話したところ、ちょうど5年生が、夏休みの宿題として、国際交流の絵画がでるところで、なぜ、イタリアやオーストラリアなのかの理由が分からなかったけれども、そういう繋がりがあって、夏休みの宿題に絵を描くということを初めて知りました。子どもたちから、「そうだったんだ。」という声を聞かせていただきました。そういった意味からも、給食というたった一食のご飯であったかもしれませんが、日本の文化に気がついたり、また、工夫して作ってくださっている方への感謝を言ったり、姉妹都市ということで自分たちが住んでる地域の国際的な事業についても理解を深めてもらったことがとても印象に残りました。また続けていけたらと思います。
高木市長	他にご意見等ありますか。
都橋委員	給食ですから、遊び心はあっていいと思います。一番最後のページの学校給食郷土料理マップや先ほどのハワイアンメニューのようなものを取り入れてもらって、子供たちとコミュニケーションを取りながら、給食をいただけたら、子どもたちも楽しいのではないかと思います。

原澤委員	先ほど副市長がイタリアとかにも思いをはせていたということをお教えくださったのですが、新聞にも渋谷のハワイアン給食の様子があって、写っていた先生もアロハシャツを着ていてとてもいいなと思いました。生徒、児童のみなさんがどうしてハワイなのかという疑問をどれくらいもつか、給食だけではなくて、他の事業、例えば、ハワイ出身のALT がいたら、ハワイの食生活などについて、そのALT の授業を受けるですとか、それから、今日、1階のハワイの展示を拝見したのですが、そこでは、ハワイ公使の方（アルウィン）が、日本における国際結婚の第1号だったとか、15年かけて日本人の奥さんと結婚したとか、日本愛がすごく強かったとか説明がありました。そういった、食に関連して、色々なことに広がりがあると、家でもだからハワイメニューの給食を食べたんだよということが言えると思うので、食を通じて、リベラルアーツではないですが、色々な学問に発展していくといいのかなと思います。また、生徒が中学生になったら、自分たちの好きな献立や栄養価を全部考えて、コンクールのようなものがある、そこで内容がよかったものは学校給食に採用してもらえたりとか、給食を通じて、子どもたちが学んでいるということができたらいなと思いました。 高校に勤めていたときに、高校は一部を除いてお弁当持参なのですが、学校によって生徒のお弁当が全く違う、お弁当を持ってくる子が少なく、なんとなくひっそりとお昼ご飯を食べているところがあれば、いわゆるスーパー進学校のような学校は、これでもかというほど、豪華なお弁当を持ってきて、食に関する環境がどれくらい恵まれているとか、そういったことが子どもの体や心をつくっているということを感じました。そういった意味では、給食は安心して栄養のあるものを楽しく食べられるものです。なおかつ、色々な学びに発展していったら素晴らしいのではないかと思います。
高木市長	格差の関係は深刻なことだと思います。環境によって色々なことに影響がでている。現実にはそういったことがあるということをお踏まえて考えていかなくてはならないと思います。

高木市長	須田委員から何か意見はありますか。
須田委員	15年ほど前、PTAの役員を務めていたときに、当時の校長先生から、子供たちをとりまく家庭食について、格差が大きくて、もやしばかりを食べている子どもが実はいて、外側からは分からない実状があることをお聞きしました。今は、当時よりも環境が改善されているのか、悪化しているのかということをお聞きしたいのと、完全無償化から一部負担に戻すことは、色々な反発などあって難しいと思うので、財源の確保に努めていただきたいということと、県の負担をお願いすると先ほどお話しがあったと思うので、引き続き要望をしていただきたいと思います。
高木市長	給食の現場の格差のことについて、渋川市ではどうですか。
学校教育課長	何割ぐらいの子どもがそのような状況にあるのか、調査はできておりませんし、非常に難しい問題です。毎朝ご飯を食べてきているかという調査をすると、大体9割の子どもが食べてきてると回答があります。それでも一定数は食べてこない。ただそれが、食べられないのか、あえて自分で食べないのかというところまでは分からないのが現状です。
高木市長	実態が分からないというところが問題であると思います。
伊勢副市長	国によって子どもの貧困率という調査をしております。以前は約10%でしたけれども、現在では13.5%と、やはり上昇しております。そして貧困だけではなく、昨今、ヤングケアラーという言葉も出てきておりますように、子どもたちの格差、子どもたちが抱える課題等については、深刻になっていると言われているのが現状でございます。おそらく、そのようなことが背景にあるのではないかと思います。 特に今は夏休みですので、子どもたちが何を食べているのかということが心配ですね。最近ではこども食堂もなかなか食材が集まらなくて困っているという話も聞きますので、こういったことは国においても考えてもらわなくてはならな

	いかと思います。それから財源のことについては、教育委員さんからもご意見があるということを訴えていきたいと思います。
高木市長	他にご意見はありますか。
原澤委員	地産地消について、地産地消とは何かとか、何が一番大事なのかを考えることがあります。定例教育委員会の時に農協との交渉を教育総務課長がしているということをお聞きして、お仕事の範囲が広くて大変だと感じました。農協との交渉とか、学校とのコーディネートとか、両方に通じているといえますか、農協に農産物がどれくらいあって、学校にどれくらい使えるのかというのは、コーディネーターとしての重みがあるのではないかと思います。専門的な領域については、うまくコーディネートできる方が本当はいた方が良いのではないかと思います。予算のこともあります。もしも、地産地消を推奨していくのであれば、そういった視点も必要なのではないかと常々思っております。
高木市長	今のご意見に対して何かありますか。
教育総務課長	地産地消を推進するために、専門コーディネートをする方がいた方が良いのではないかとご意見をいただきました。農協との調整を私がしたということもありましたが、基本的には学校給食の担当係長等が交渉して、そこに私が同席したようなところでございます。昨年度の2～3月には、給食の担当係長が動いて、渋川市産のお米を使って、給食のご飯を提供することができました。 渋川市の農家数は減ってきていると思います。農家は大変な仕事であるということ、また、高齢化が進んで後継者がいない。そのような状況の中で、渋川市産のものをさらに使っていくということが難しいということは事実であります。渋川の子どもたちに、渋川市産の野菜などを給食で食べていただくというのは、食育として大切なことだと思っておりますので、コーディネーターをつけることは難しいことだと思

高木市長	ますが、可能な限り渋川市産の食材を給食に取り入れられるように努めてまいります。 地産地消はこれからも進めていきたいと思います。ただ、安定して地元の食材が供給できるような体制とあわせて考えなければいけないと思います。それは、うまくコーディネートできる人が間に入ることが大事なのだろうと思います。課題として検討していきたいと思います。 他に意見はありませんか。 私から1つよろしいでしょうか。 先日、子どもたちと一緒に給食を食べて、食べるのが早い子もいるし、食べるのに時間がかかる子もいました。30分程度だったと思うのですが、その時間で食べなくてはならないのでは忙しいのではないかと思ったのですがいかがでしょうか。学校全体としての時間配分があるとは思いますが、特に1年生にとっては忙しいと感じました。
下境教育長	私も教員としては中学校が長かったです、中学生は配膳等の時間も非常に手際よくやりますので、逆に言うと、食事を取る時間は確保しやすいです。逆に小学校では、1年生、2年生あたりはもう運ぶところから時間もかかりますし、配膳は教員と一緒にやりますが、とても時間がかかる。当然その分、食事をする時間は短くなりますけれども、各学校で工夫をして、大分食事をする時間を確保するようになってきました。どうしても食べる時間の差はありますけれども、遅い子がある程度食べきる時間を確保できるようにすること。それとその後、食後の歯磨き指導を徹底して、学校でやっています。歯磨き指導まで終わっていいよ昼休みというような流れをとっておりますので、少し短く感じるかもしれませんが、我々からすると、時間は取れるようになってきていると考えております。
高木市長	給食についてはよろしいでしょうか。 それでは、食育の推進と給食については以上とさせていただきます。

4 議題（２） 渋川市の特色ある英語教育の推進について	
高木市長	次に、「渋川市の特色ある英語教育の推進について」に移ります。教育部から説明をお願いします。 【教育部 説明】 説明が終わりました。 委員さんの皆さんからご意見等ありましたらお願いします。
岩崎教育 長職務代 理者	S G C D（渋川グローバル・コミュニケーション・デー）に教育委員として見学をさせていただきまして、小学校の、子どもたちがカードゲームのようなもので、一緒に遊んでいる様子や、中学生がすべて英語で、A L Tによって進行されている中で、ゲームの内容をよく分かっていないような子もいたり、それを理解して楽しんでいるような子もいたり、それぞれの持っている英語力によって、S G C Dが楽しめたり、楽しめなかったりするのではないかと思います。とにかく、一番楽しそうだったのはA L T自身で、普段は各学校に１人配置されていて、日本語を交えながら英語を教えてくださいと思っていますが、A L Tが孤立しないような、学校での工夫だったりとか、学校同士の交流、A L Tを２人セットに回したりとか、そういったことをしてくださっていたりするのかもしれませんが、英語のシャワーという意味では、ネイティブがネイティブと話すというのを子どもたちが見る機会にもなりますので、そういった機会があると良いかと思います。 伊香保は、日本の中でも海外の方がたくさんいらっしゃる観光地になっていると思いますが、渋川駅や伊香保で英語のガイドボランティアというものがあるのかどうか教えていただきたいと思いました。
伊勢副市長	大変貴重なご意見をありがとうございます。 先ほどの学校給食の話に戻ってしまいますけれども、子どもたちがハワイの場所を示して、なぜ、ハワイは暖かいのだ

岩崎教育 長職務代 理者	ろう。赤道に近いからとか、そういったことを子どもたちが話していました。でも、日本みたいに春夏秋冬がないんだよねと話をしていました。違う国のことを知ることは、自分の国の良さに気づくことになると思います。そういった意味では、ALTが学校にいて、色々な文化を教えてもらうことによって、自分たちが住んでいる地域のことを自慢し合ったりする場面も多く見ております。 そして、現在はインバウンドが進み、伊香保にもたくさんの方にお越しいただいております。そして何より、伊香保地区の約1割は外国籍の方が住んでおりまして、働いてる方、特にサービス業に色々な外国籍の方が従事をしてくださっております。そういった意味では、身近な部分で国際化が進んでいるのが実情でございます。今年度、地域おこし協力隊の募集をしておりまして、外国の言葉が話せる方を伊香保温泉に配置して、そういった方が実際に案内をしてくださったり、また、そういった人がどのように宣伝をしていくことが海外からの観光客の誘致につながっていくのかという視点を取り入れていきたいと考えております。現在、募集をしておりまして、英語や中国語を話すことができるガイドをみつけている状況です。必要性については、市も十分認識をしておりますので、紹介できることを期待していただければと思います。 小規模特任校の小野上小学校に在籍している4番目の娘が、今日はALTの先生とこんなことをして遊んだというような話を聞きます。遊ぶことを通して、外国の方と分け隔てなく接することができていて、本当にありがたいことだと思います。ただ、それが本当に数名の児童だけにとどまっていることが本当にもったいなく感じていて、大規模の古巻小学校にALTが常駐していることを知りましたが、本当に多くの子どもたちと接する方が、おそらく、ALTにとっても良いのではないかと思います。以前に、教育委員会の定例会でも意見させていただいたのですが、地域の方たちの中にも、ALTと交流を持ちたいと思っている方がいらっしやると思います。そういった方たちとの交流ができるようにな
-----------------------------	---

	ると良いのではないかというのと、そのA L Tから見た渋川をS N Sなどで情報発信をしてくださるとA L Tがいる価値がより高まるのではないかと感じております。意見となりますがよろしくお願いします。
高木市長	小規模特認校にあえて1人A L Tを配置をして、常駐させておりますが、環境に恵まれてると思うと同時にもったいないという意見でした。これは、試行錯誤しているところではあると思いますが、現場ではいかがでしょうか。
学校教育課長	本当に貴重なご意見ありがとうございました。「A L Tから見た渋川」は、ぜひ、何か取り組んでみたいと思います。 月に1・2回、A L Tミーティングというものをしております、そこでA L Tの意見を聞いているのですが、A L Tは本当に頑張ってくれています。多くの学校に常駐できると、また活用する方法も変わってくるのかなと思うのですが、小規模特認校に配置したのは、一番密に、子どもたちと触れ合えるので、まずは取り組んでみて、また意見を聞きながら、財政的なこともあるので、何とも言えませんが、検討させてもらえたらと思います。 A L Tから見た渋川というのは本当にいいと思いますので、参考にさせていただきます。ありがとうございます。
高木市長	他にご意見があればお願いします。
都橋委員	A L Tの活動を私も見させていただいて、子どもたちがとても楽しく勉強してる姿、本当に微笑ましく思うところでございます。私の個人的な意見なのですが、最近の世の中は、コミュニケーションを取れない世の中になってるのかなと思います。みんなスマートフォンでの対話になってしまっていると感じるところです。特に若い世代、子どもたちがそうだと思います。外国の人たちはコミュニケーションがとても上手なんですね。ですから、A L Tを活用させていただいて、先ほどの国際教育、平和教育、そういったものにつなげていただいて、ぜひ、アナログ的なコミュニケーションのとれる子ども

	の育成を心がけていただきたいと思います。
高木市長	まさにその通りだと思います。英語を覚えることだけが重要ではないのだと思います。コミュニケーションをどう取るかということだと思います。日本語を話せたとしてもコミュニケーションがお互い取れなければそれも問題だと思います。本質はそこにあるのではないかと思います。
原澤委員	先ほどのお話をお聞きして、A L Tが英語以外の学校活動をサポートしていて驚きました。教科の補助、実習教員のような位置付けですけれども、これは高校にはないことで、A L T自身が受け入れて取り組んでいることだと思いますが、S G C Dの英語のシャワーよりも、効果があるのではないかと思います。何かしているときに横に、A L Tがいる、それは望ましい状況だと思います。 小規模特任校が特別なのだと思いますが、小規模特任校以外でもここに書いてあるようなことが行われているのかお聞きしたいです。
学校教育課長	中学校は全校配置になっていますので、全校に1人ずつ配置になっています。 A L Tの負担にならないように、教材研究の時間も必要ですので、給食の準備をしてくれたり、一緒に掃除してくれたり、あるA L Tは朝の会に出てくれたり、あとは、音楽の好きなA L Tは、音楽の授業に子どもみたいに一緒に参加したり、そのように取り組んでいただいています。委員がおっしゃったように、S G C Dも大事ですが、そういったことが日常化してくれば、さらに素晴らしいなと思っています。昨年度からそれをお願いし始めました。
原澤委員	この前の教育委員会の時に、伊香保のA L Tが夏休み中に、A L T主催のイベントを独自に行うとお聞きして、言われたことをするのではなくて、地域に溶け込んで取り組んでいただけなら理想的ではないかと思いました。

教育長	以前のA L Tは、授業に出て、空き時間は職員室にいる。休み時間は特に教室に行くこともなく、中にはですね、放課後の部活動に興味があって参加してくれたA L Tもありましたけれども、S G C D等でA L T同士がコミュニケーションをとるようになることで、他ではどんなことをしている、おそらく、A L Tも色々取り組みたいことがあるのですよね。そういった思いがある人たちが日本に来てくれるのだと思います。だから、他の情報を得ることによって、こんなことをしている、こんなこともできるんだ。そういったことを前教育長が推進したのですよね。A L Tが職員室で空き時間を過ごしているのはもったいない。負担にならない程度に授業を見に行ったり、子ども側に寄り添ったり、日本語で授業をやっているわけですからA L Tも、もしかすると、個人によっては負担があるかもしれませんが、そういうところでコミュニケーションが図れるようになって、まさにこのS G C Dがきっかけづくりとなって、よりA L Tと話しやすくなったという子もいるように聞いています。そういう意味では、渋川独自のA L Tの活用の仕方、それによってA L Tも自己有用感みたいなものが、広がってきているような気がします。ただ、今日の資料にあるように、大人数で行った学校ほど、S G C Dの満足度が低かった。もっと子どもたちのペースで話したりして交流したりしたいと思うので、できるだけ交流時間や場面が多ければ多いほどいいと思うんですね。ただ、S G C DはA L Tが1つの学校に集合するわけですので、普段自校で授業に充てている時間が減ってしまうので、機会が増えれば増えるほど自校での活動の時間を制限されることになります。その辺りのバランスを取っていかないといけないと思います。基本は英語教育の充実という点もありますので、英語の授業をしっかり計画的にやっていく中で、時間の調整をしてS G C Dにみんなで協力していく。そのようにうまくバランスをとりながらしてみると、さらに渋川独自の英語教育の充実に繋がると思っております。以上です。
高木市長	他にご意見はありますか。 ないようですので、時間も迫ってきましたので、渋川市の

	特色ある英語教育推進については以上とさせていただきます。以上で全ての議題を終わりにさせていただきます。
５ その他（１） ヒメギフチョウの現状と保護活動について	
高木市長	次に、その他の報告事項として、「ヒメギフチョウの現状と保護活動について」教育部から説明をお願いします。 【教育部説明】
岩崎教育 長職務代 理者	文化財保護課でこちらを守ってこられているということですが、絶滅危惧種の保護については、文化財保護課がすることが妥当なのかどうなのか、一市民として、疑問に感じています。特に鹿の被害が深刻であれば、森林の担当課ですとか、連携していかないと、害獣による食害が原因であれば、もう少し横断的に市として取り組んでいただいた方が良いのではないかと感じました。 また、専門職員の方がいらっしゃらないのであれば、先ほどの英語の専門ガイドのように、地域おこし協力隊のように、専門的な知識がある程度ある方もいらっしゃると思いますので、全国から人材を募集する方法もあるのではないかと思います。
文化財保 護課長	ご意見ありがとうございます。横断的取り組みに関しましては、文化財保護課が単独で取り組んでいるわけではなく、民間の保護団体、それから、地元で活動されている皆さん、そういった方々と市役所の関係部署で保護連絡協議会を組織しておりまして、県の指導を受けることは大前提となりますが、そちらで検討をした上で進めております。森林の担当部署とは、一緒に作業することはありませんが、行き違いのないように取り組んでおります。 それから、専門家につきましては、昆虫の森の職員に協力いただいておりますし、また県外でヒメギフチョウの飼育を何十世代と続けている方がいらっしゃいまして、その方に來ていただいて、作業のお手本を見せていただいたり、実際に作業をしていただいた部分もそれなりにありまして、職員が

高木市長	自らヒメギフチョウに触れるということは実はしておりません。 そのように対応しておりまして、もちろん、新たに手助けをしてくださる技術者がいれば、積極的に声をかけていきたいと思っております。 他にご意見はございませんでしょうか。 ヒメギフチョウは、非常に色々な要素があると思いますので、これから関係者とよく連携して取り組んでいかななくてはならないと思います。 以上で報告事項が終わりました。他に何かご意見等ありますでしょうか。 特にないようですので、予定していました内容は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。
------	--

6 閉会

政策戦略課長	それでは以上をもちまして、令和6年度第1回渋川市総合教育会議を閉会させていただきます。長時間に渡り、熱心にご審議をいただきましてありがとうございました。
--------	---